

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570200784		
法人名	社会福祉法人常緑会		
事業所名	グループホームふるさと	ユニット名	東館
所在地	宮崎県都城市豊満町2642-1		
自己評価作成日	平成26年7月15日	評価結果市町村受理日	平成26年10月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kainokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&id=yosyoCd=4570200784-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年8月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特別養護老人ホームの中にあるグループホームで、西館・東館の2ユニットがある。母体施設の協力を受けながら、穏やかに過ごしてもらっている。常時、看護師がいる訳ではないが、日中・夜間とも同施設の看護師に報告して指示をもらったり、同施設の宿直者に応援をもらったりできるので、1人の夜勤だが心強い。東館は西館のように緑豊かではないが、その分色々な事をして楽しんでもらっている。家族の集いでバイキングをしたり、花火大会では焼き鳥・焼肉をしたりして、家族と入居者・スタッフも一緒に過ごした。もちろん、メニューは事前に入居者に尋ねて準備した。ご家族に話を伺うと、「面会に行っても他の家族と会う機会は少ないので、とても楽しかった。」と話されている。今後も色々な事を入居者と一緒に考え、手伝ってもらいながら、楽しく過ごしていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、同法人の他の施設がある敷地内にあり、他の施設との協力関係が得やすい。ホームは、年間目標を掲げ、意欲的に介護に取り組んでいる。ホームの厨房での料理、食材は、地域の店からの仕入れをしており、多くの利用者が、調理から片付けまで加わり、生き生きと家事に参加している。故郷の情景を思い出させる歌が作られており、壁に貼られている。利用者はそれを見て歌い、涙ぐむ利用者もいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	東館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年間目標・研究課題を毎日唱和し、共有・実践に繋げている。		地域との交流や催しに参加し、生活圏を広げ、触れ合いを持つという理念と介護の理念を共有し、実践につなげる支援をしている。地域の情報を得て、参加する機会が増えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ふるさと通信を年2回発行し、西豊満地区に回覧している。母体施設の夏祭り時、地域の方も参加され、交流を図っている。食材は地域から配達してもらい、毎日交流がある。		高齢者クラブの踊りやハーモニカ演奏など、ボランティアの受け入れがなされている。地域の文化祭にも、利用者の作品出展で参加している。食材は、地域の6店舗から配達してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に出かける機会はなかった。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議事録は作成しているが、スタッフ全員が共有できていない。		委員から情報提供や意見が出て、それが生かされた会議となっている。家族会に声をかけて、委員に新メンバーが加わっている。議事録は、職員が読めるようになっているが、共有するための周知・徹底を今後行う予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	在宅部会や市主催の研修会に参加しているが、周知が不十分である。		事故報告や申請などで出掛けた時に、情報を提供し、また、判断に困ったことなどがあれば、相談などを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないケアをしている。だが、安全面から、玄関は施錠している。以前は昼食時間だけは解錠していたが、現在はそれが守られていない。ホーム内では自由に過ごしてもらっている。		管理者及び職員は、身体拘束をしない意義をよく理解しているが、門扉以外は施錠がなされている。最近徘徊傾向の方がおり、安全重視のため施錠している。	少しずつ解錠を目指し、支援し続けていくことを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はない。施設内・外の研修に参加して、虐待がおこらないように努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	東館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性が生じた際は活用している。母体施設や市の研修会もあった。現在、娘も息子もいるが、後見人制度を利用している方がいる。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議に参加されている家族の要望・意見は聞き、実践している。面会時にはなるべく、要望などを聞くようにしている。		家族からの要望に真摯に対応・説明をしている。利用者の要望で、和服を着てショッピングモールに出掛けたこともある。利用者から食事についての要望があると、メニューを変更・追加し、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやサービス検討会での職員の細やかな意見を主任者会議であげている。		定例の集まりで意見や要望が出され、対処している。必要な時には、管理者やチーフは、職員からの相談や要望を聞き、支援につなげている。事務長及び管理者は、職員の要望を聞き、職員配置について相談し、善処する予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や勤務状況などを把握して、職員が充実して働けるよう努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園内・外の研修を受ける機会が設けてある。出席した職員が、研修した内容について、朝のミーティングで報告している。また、研修資料をいつでも見られるようにしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	都城や三股地区の定例会がある。ホーム長が出席している。			

自己	外部	項 目	自己評価	東館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面接で、話しやすい雰囲気を作り、不安な事・困っている事などを聞き出して、安心してもらえるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを傾聴し、安心してもらえるようなケアを心掛けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時には、センター方式を活用して記入し、担当者会議前など、御家族、本人の要望を尋ねて対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に何かをする事を心掛けている(家事など)。労いの言葉を忘れないようにしている。スタッフ自身の事を話して、話題を共有する事もある。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診時、付き添いをお願いしたり、ミニドライブ時に声かけをして参加してもらったりしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	”近所に住んでいた方が、中郷園に入所されている”と言う方がおり、面会に行く事がある。かかりつけ医を変更していない方がおられる。		知人に同法人の施設に会いに行っている利用者もいる。知人が訪ねてくる利用者もいる。土日に、自宅で家族と過ごす利用者もいる。なじみの公園や神社に出掛ける機会を設けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	茶話会をしたり、洗濯物を皆でたたみながら世間話をしたりして、入居者が孤立しないように心掛けている。また、入居者同士お互いの居室に行き、おしゃべりしたり、ホールに出て来られない方がいれば呼びに行ったりしてもらっている。			

自己	外部	項 目	自己評価	東館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方が中郷園に入所されたので、面会に行き、会話する事がある。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1回、全員出勤日を作り、一人ひとりの現状を話し合っている。		管理者は、職員全員から各利用者の状況を聞き、把握するよう努めている。利用者の表情、仕草、動作の変化などを見逃さずに、支援につなげている。変化があるときは話をゆっくり聞き、不穏な状態を解消させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を知り、本人の希望・思いをケアに活かしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日健康チェックを行い、表情・動きなどを把握して、無理のない程度で出来る事をしてもらっている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全員出勤日に担当者会議を行い、話し合っている。		利用者や家族との話し合いを持ち、月1回のモニタリングを活用し、3か月・6か月の見直しと計画書の作成をしている。利用者の状態の変化に応じて、随時に見直しと計画書の作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきなどはミーティングノートに記入し、情報を共有し、介護計画に活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれに応じたニーズをスタッフ・家族で話し合い、ケアに活かしている。			

宮崎県都城市 グループホームふるさと(東館)

自己	外部	項目	自己評価	東館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	母体施設に大きなイベントがあれば参加させてもらったり、夜間は宿直者に応援をもらったり、病院受診・ミニドライブの送迎なども協力をもらっている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昔からのかかりつけの病院への受診や協力医療機関の医師の回診・必要な受診など、適切に受けられるようにしている。家族と協力しながら行っている。		以前からのかかりつけ医への受診には職員が同行し、利用者の状況を口頭で医師に伝えている。毎週、協力医の往診があり、看護師が情報を医師に提供している。往診の際には、管理者も同席し、その後の支援につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体施設の看護師に報告し、健康管理や医療活用の支援をしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行き、状況の把握を行っている。また、看護師・病院関係者と情報交換を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や週末期など、段階に応じて、家族と充分話し合い、取り組んでいる。また、延命についての希望を尋ね、記録している。だが、家族の気持ちも変わる場合もあるので、その時その時に話し合いの場を作り、対応している。		看取りの指針の文書と事前確認書を準備している。入居時に説明し、状態変化時にも家族との話し合いを設けている。刻々と変化する状況にも、医師を含め、話し合いを設け、事前確認書を取り、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDや心臓マッサージの研修が定期的にある。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体施設と連携をとり、地域の協力が得られるようにしている。月1回は避難訓練をするようにしているが、できない時もある。		同法人の敷地内にあるホームや施設を含めた合同避難訓練が、年に2回行われている。ホーム独自では、月1回の訓練を計画しているが、ホームの事情等により行えないことがある。避難訓練で消防署の指導を受けていない状態である。	夜間想定ホーム独自の避難訓練を昼間行っているが、消防署の参加と指導を受けることを期待したい。また、地震想定訓練を行うことも期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	東館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他入居者の記録にはイニシャルを用い、本人の名前のファイルはきちんと管理している。人生の先輩である事を考えて、対応している。本人に苗字か名前のどちらで呼んでほしいか尋ねている。	自己決定の尊重がなされている。提案し、反応や仕草で手伝ってもらったり、別の提案をして繰り返し、思いを探っている。手伝いをしてもらう時は、依頼する表現になっている。居室に利用者がいる時も、時々ノックして確認しているが、頻繁には訪ねない配慮をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の尊重は、不利益でない限り行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝、今日は何がしたいか聞いている。散歩は、天気を見て決めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に好きな服を選んで着てもらっている。「色が似うね」「デザインがいいね」などとおしゃれする事をすすめる言葉を使っている。化粧をする機会を作っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時期に応じたイベント食(誕生会では赤飯や散らし寿司・家族の集いではバイキング・花火大会では焼き鳥など)を提供し、楽しんでもらっている。声かけし手伝ってもらう時や自ら進んで手伝われる時がある。味噌汁の具を切ったり、米ときや茶碗を洗ったりして下さっている。イベント食は、食べたい物を尋ね、入居者の希望に沿ってメニューを決めた。	ホーム内で、栄養士の作成したメニューで料理をしているが、利用者の要望が柔軟に生かせるようになってきている。職員は、共に同じ食事をとり、料理の手伝いや配膳、下膳、片付けなどに利用者にも加わってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体施設の栄養士の作った献立で、栄養バランスの良い食事を提供している。摂取量は健康チェック表に記入している《健康チェック表には、体温、血圧、食事・水分摂取量(1日の水分量合計)、排便、入浴などが1か月分一覧表となっていて見やすい》。一人ひとりの状態に応じて、トロミなどをつけている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	東館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の訴えでトイレ誘導をしている。夜間、紙パンツの方は、トイレ介助を行っている。		排せつパターンの活用やそぶりなどで、トイレ誘導を行っている。車椅子で入院からホームに帰ってきた利用者が、職員の寄り添いで歩いてトイレに行けるようになった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を作成して、排便の有無の確認をしている。それに沿って、緩下剤でコントロールする方もいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の状態に合わせて、入浴してもらっている。仲の良い同士で入浴してもらう時もある。だが、現在、入浴介助のできるスタッフとそうでないスタッフがいるので、スタッフ側の都合になる事がある。入浴時は声をかけ、会話を大切にしている。		利用者一人ひとりの状況に応じて組み分けをし、週2回の入浴になっている。それ以外は清拭をしたり、状況によってはシャワーを使ったりしている。入浴回数を増やすことなど、改善を目指そうと模索中である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に過ごしてもらっているが、その日の本人の状態・年齢などを考慮して、休んでもらう時もある。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	何を服薬しているのかわかるように、一人ひとりファイルを作っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴を知り、出来る事を見つけて、無理しない程度にってもらっている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1回は外食・買い物などの目的で外出の機会を作りたいが、出来ない事もあった。		少人数でホーム内の散歩や敷地内の施設に行く外出の支援を行っている。草取りの好きな利用者と共に草取りをしたり、落ち葉掃きをすることもある。買い物に行きたいという利用者には同行している。	

自己	外部	項目	自己評価	東館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	バッグを持っている方が二人おられる。千円だけ持っておられる。外出時、買い物する時に払ってもらっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は電話をかけてもらっている。また、家族にもいつでも電話をかけてよいと伝えている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が分かるように、季節ごとのいろいろな作品と一緒に作り、掲示している。居心地良く過ごせるような工夫をしている。キッチンに入ってもらう時は、個人用のエプロンをしてもらっている。		蛍が飛び交うちぎり絵など、季節感を表す利用者の作った作品が飾ってあったり、利用者と職員が作った灯ろうが下げられている。職員は、清潔を心がけているので、異臭もない。温度調整は、設定温度が決められているが、職員は利用者の状態に気を配り、クーラーの温度を調整している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や和室などにソファを置き、ソファに座って思い思いに過ごせるようにしている。お互いの居室を行き来して、おしゃべりしている方達もおられる。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が以前使用していたものを持ってきてもらっている(タンス・ソファ等)。また、家族の写真や娘の書いた自画像、水彩画などを飾っている方もおられる。		タンスやソファ、仏壇などがある部屋や利用者の状態で家族の写真や外出時の帽子だけがある居室もある。利用者の状態で高いタンスは危険との判断で二つに分けて配置している居室もあり、一人ひとりに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の出来る事を見つけてしてもらっている。			